

秋田・新潟・青森・宮城・福井・千葉

秋田県支部 ● 埔里の馬鎮長を歓迎

五月八日、仙北市観光協会、田沢湖国際交流の推進団体、そして本支部有志が合同で、ロングステイ誘致のために来日した南投県埔里鎮の馬文君鎮長一向の歓迎レセプションを行った。

会場は昨六月、李登輝氏が宿泊したホテル「都わすれ」の女将、佐藤京子氏経営の田沢湖畔のホテル「イスキヤ」。佐藤氏をはじめ現地側は、これまでも馬鎮長と交流を続けてきた。

一向は十数名。それを三十名ほどお迎えしたが、夕刻から開始されたパーティーは大いに盛り上がり、閉会後もそのまま二次会に突入、夜遅くまで歓談、カラオケ、ダンスなど、賑やかな交流が続いた。当日は宮城県支部の小川英子氏（在日台湾婦女会会長）や



カラオケに興じる馬鎮長（中央、5月8日）

青森県支部の戴淑貴事務局次長、本部の永山英樹理事も、通訳などで歓迎のお手伝いに駆けつけた。

十一月には、今度は支部有志が埔里鎮を訪問し、ロングステイでの相互交流などについて話し合うことになっている。なお支部の正式発足を秋に行う予定。（編集部）

新潟県支部 ● 5月18日に第六回総会

発足以来満五年を経過した新潟県支

部では、去る五月十八日に約五十名が参加して、第六回総会を開催した。

総会では、伊藤栄三郎名誉支部長より台湾総統選挙の際における対応や、李登輝先生ご夫妻を新潟にお招きする運動についての経過説明も行われた。また、当支部では会員数が八十人前後と伸び悩んでおり、今年度の事業計画では「会員数を百名にする」ことを最重点課題とした。

総会後半の記念講演は、講師に林建良先生をお迎えした。総統選後間もなくでもあり、しかも演題が「李登輝先生の最後の戦い」というドラマチックなもので、参加者の関心は高かった。

講演の要旨は「台湾人の考えは、民主的で自由な現在の台湾を維持していくというのが大方の総意。民進党も国民党もその考えは同じで、独立派、統一派の旗は権力闘争の具に過ぎない。李先生は常に百年単位で将来のことを考えておられ、馬英九政権にも李先生の脈が生かされている。李先生の最

後の大きな仕事は、今まで以上に台湾と日本の関係を親密にしていこうかと思う。日台はいつそう緊密に協力して、将来の諸問題に対応していこうではないか」というもので、その熱弁に深く感動させられた。

(支部長・下村忠行)

青森県支部 ● 5月17日に役員改選

五月十七日、青森市内の青森県国際交流協会ラウンジにて青森日台交流会との合同総会を開催しました。二つの会の理念は共に「日台共栄」であり、中心メンバーも同じ方が多いこともあって、合同開催となりました。

当日は若干の役員改選が行われ、次のようになりました。

支部長―大見光男、副支部長―江坂庄一、菊池晃(新任)、事務局長―中西功、事務局次長―戴淑貴。

また今年の講演会や料理教室や語学講座などについても検討しました。

閉会後のお茶会では台湾総統選挙、

チベット問題、今後の台湾などの話題にも及びました。

本会は会員達と多くの方々への支えのおかげで活動しております。これからも活動の拡大と充実を期していきたいと思っておりますので、どうか協力ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

(事務局次長・戴淑貴)

宮城県支部 ● 李登輝先生句碑を建立

六月八日、李登輝元総統が昨年来日された折、宮城県・松島で曾文惠夫人とともに詠まれた俳句の句碑が建立され、その除幕式が新緑に映える松島の瑞巖寺境内で行われました。



建立の句碑と相沢(右)・嶋津両氏(6月8日、松島・瑞巖寺)

除幕式は宮城県支部(嶋津紀夫支部長)と宮城県日台親善協会(相沢光哉会長)の共催により、郭仲熙・台湾駐日代表処業務組次長、秋葉賢也・衆院議員、大橋健男・松島町町長、柚原正敬・本会事務局長、林慎平・本会理事などの来賓の他、小川英子・在日台湾婦女会会長や県議会議員、支部会員など地元の方々約五十名が参列して行われました。

まず来賓の方々による除幕式が行われ、句碑をおおう白布につながれた赤いテープを引くや黒光りする句碑が燦然と現れ、大きな拍手が沸き起こりました。その後、瑞巖寺の僧侶による開眼法要、主催者の相沢光哉氏(本会理事)の式辞、そして李登輝先生からの懇篤なご祝辞を柚原事務局長が代読。

続いて来賓祝辞があり、嶋津支部長による閉式宣言をもって式典を終了。

引き続き、瑞巖寺の隣に佇み、李登輝先生がお茶を喫するために立ち寄られた円通院にて祝賀会が行われ、日本

初となる李登輝先生句碑の除幕式を滞りなく終えました。(編集部)

福井県支部●李登輝先生と面会

本支部は五月十七日に発足を、役員には私、白崎一衛が支部長、宮内治彦氏と藤田敏男氏が副支部長、三上伊三男氏が事務局長にそれぞれ就任しました。また顧問には山谷えり子・参院議員、稲田朋美・衆院議員、宮元陸・石川県議にご就任いただきました。

当日は福井市内で発足を開催。本支部の永山英樹理事を含め約二十名の出席がありました。初対面の方も多く、自己紹介をお願いしたところ、台湾関係の本、李登輝先生の本で台湾の重要性に気づき、日台が置かれている現状に憂いを感じている方が多いのに驚きました。稲田顧問も見え、エールを送っていました。

また六月三日は小松―台北の定期便が就航、白崎、藤田、三上、白崎妻の四名は定期便誘致で奔走された宮元顧問

間に行き、その一番機で台湾を訪問しました。

李登輝先生とも面会し、支部発足を報告。私たちがお目にかかるのは李登輝学校に参加して以来でしたが、いつもながらの気迫に敬服。日台のたゆめ頑張ろうと、決意を新たにしました次第です。(支部長・白崎一衛)

千葉県支部●第2回台湾問題研究会

六月七日、船橋市内のサン・グランドホテル船橋で台湾の楊應吟氏を講師に第二回台湾問題研究会を開催した。

当支部では地道に努力されてきた民間人の生のお話を聞くという方針なので、今回は鍼灸を通じて日台の民間交流に尽力され、『素晴らしかった日本の先生とその教育』(桜の花出版)の著書もある楊應吟氏に「好日から抗日に移り行く台湾」と題して講演を依頼。参加者五十名余の中には、遠く香港、台湾、福岡、滋賀からも。また会員以外方の比率が三分の一を占めた。



講演する楊應吟氏(6月7日、船橋市)

当支部ブログ「千葉発日台共栄」のファンや楊氏のお弟子さんたちの参加も多く、草の根的活動の成果といえる。

楊氏は台湾の親日感情は日本語世代の存在が大きいと思われるが、世代交替した時、この親日が反日になる可能性があるという。原因は戦前の日本の行為に対するネガティブキャンペーンよりも、戦後の日本政府の台湾に対する無知、無視などとのこと。そして、台湾を反日にしないためには民間交流の強化と結論付けた楊講師に大きな拍手が送られた。参加者の大半は懇親会にも参加して親交を深め、有意義な一日となった。(事務局長・金光俊典)